

CLOSE UP

クローズアップ

金城学院大学 生活環境学部 食環境栄養学科  
石田 淳子 准教授

大学卒業後、慈恵会慈恵病院に管理栄養士として就職。その後、静岡県立大学大学院に進学。JA静岡厚生連遠州病院<sup>※1</sup>で勤務後、常葉大学<sup>※2</sup>研究助手、助教、国立健康・栄養研究所協力研究員などを経て、2011年に金城学院大学に就任。専門分野は基礎栄養学、臨床栄養学。研究テーマはCKD患者の低栄養に関する検討。日本病態栄養学会学術評議員。

※1 在籍時:遠州総合病院

※2 在籍時:常葉学園 浜松大学

# 基礎から実践まで幅広い力を備えた 素敵な管理栄養士になってほしい

授業では基礎の科目を担当し、研究では腎臓病の患者さんの栄養療法について検討されている石田淳子先生。ゼミではご自身の研究テーマのもと、学生の興味や関心に合わせて実験や演習を行っています。また、実際に学会発表やレシピコンテストなどへの参加を促し、学生の主体性や意欲を高める学びも展開。こうした学びを通して、「素敵な管理栄養士に育ってほしい」と日々願っていらっしゃいます。

## Ⅰ 大学院や病院での経験が今の研究に

大学の授業で病気と栄養について学んだことがきっかけで、卒業後は病院で働きたいと思うようになりました。実際に病院の管理栄養士として仕事をするうちに、「もっと深く学びたい」と思うようになり、大学院の臨床栄養学研究室に進学したのです。

研究室の先生が腎臓病の医師だったため、CKD(慢性腎臓病)患者の低栄養改善という大きなテーマの中で、カルチニンという物質と筋肉量との関係を検討するために、患者さんの血液や透析廃液の分析などを行いました。大学院では実験手技だけでなく、計画の重要性や研究の進め方など研究の基礎を学んだため、とても大切な時間を過ごしたと感じています。

現在の研究もCKD患者さんを対象に、栄養が関わる合併症の予防や治療をテーマにしています。基礎研究も重要ですが、病院で管理栄養士として患者さんと関わった経験から、何をどう食べればよいか、患者さん自身が実践できる具体的な方法を提案することも大切な研究だと考えています。

ゼミの学生たちもこの研究テーマに沿って、実験が好きな学生は食品分析、栄養教育に興味のある学生は栄養指導用の媒体作成、食事に興味のある

学生は栄養療法に見合うレシピの検討というように、それぞれ活動しています。

また、学会発表や小冊子の発行など、学生の活動は外に発信するように努めています。先日、日本病態栄養学会が開催する糖尿病レシピコンテストにゼミの学生が応募しました。無事に一次審査を通過し、学会当日に京都で

行われる調理審査、プレゼン審査に向けて、何度も調理工程を見直し、発表練習を重ねた結果、優秀賞をいただきました。大きな会場での発表はとても緊張したと思いますが、制限時間ぴったりのしっかりしたプレゼンに努力の成果が伺えて、アクティブラーニングによる成長を実感しました。

## Ⅱ 基礎をしっかり身につけ、学生生活の中で成長を

管理栄養士養成過程では、4年間かけて基礎から実践まで学んでいきます。

私が担当している基礎栄養学は1年生の科目で、体内で栄養素がどう消化・吸収、代謝されていくかを学びます。低学年ではヒト・栄養・食べ物に関する基礎を学ぶため、生物や化学の知識が必要な授業がたくさんありますが、この時期に身につけたことが上級学年

の実践的な学びにつながっていきます。

また、管理栄養士は人と関わる職業なのでコミュニケーションも大切です。私は金城学院の教育スローガンである「強く、優しく。」という言葉が好きで、自分もそうありたいと思っています。学生には学生生活を通してたくさんの人と接し、強く優しい管理栄養士に育ってほしいと願っています。

### 石田先生はどんな人!?

ゼミの4年生に、石田先生の印象を伺いました。全員から聞かれたのは「優しい」という言葉。「いつも笑顔で包み込んでくれる」「学生思い」などの声も聞かれ優しく温かいお人柄がよく窺えます。また「授業がわかりやすい」「丁寧に教えてくれる」「一対一できちんと接してくれるのが嬉しい」など、学生から大変頼りにされていらっしゃることもわかりました。

